

広島県立広島叡智学園中学校・高等学校 令和7年度第1回学校運営協議会の会議録

本校の学校運営協議会を次のとおり開催した。

開催日時	令和7年6月17日（火） 午前10時30分～午前11時45分	開催場所	会議室（対面及びオンライン）
出席委員	谷川正芳氏（大崎上島町長） 森下秀月氏（大崎上島町商工会事務局長） 田頭吉一氏（国立大学法人長崎大学事務局長・理事）（オンライン） 草原和博氏（広島大学大学院人間社会科学研究科教授） 水ノ上貴史氏（本校PTA会長）（オンライン） 吉村 薫（本校校長）		
会議の概要	○ 会長及び副会長の選出 会長に草原委員、副会長に水ノ上委員が全会一致で選出された。 ○ 学校経営計画についての説明 本校から、学校経営計画の項目に沿って、学校運営の基本方針や主な教育活動について説明を行った。 ○ 委員からの質問等 質問 - 卒業時のC E F Rの到達目標はどの程度を考えているのか。 →学校の回答：高等学校第1学年時点でのB 2への到達以降は、学校全体としての指標は設定せず、生徒一人一人の目標に応じて対応している。 - 世界ランキング100位内の大学への合学者数の目標値は、昨年度の実績からすると控え目だと感じられるが、どのような意図があるのか。 →学校の回答：昨年度と同様に、まずは一定の水準として25名という設定をしているが、今年度もそれ以上の結果を出せるよう、引き続き高みを目指していきたい。 - 本町では今年度から、町内の三つの高等学校間での連携に積極的に関わっていきたいと考えている。また、学力面だけではなく、体力向上の取組も進めていきたいと考えており、いずれにも御協力をいただきたい。 →学校の回答：既に生徒からは、島外も含めて他校と連携して活動したいという声があり、活動推進のためのプラットフォームを作ろうとしているグループもある。本校の生徒が少しでも力になっていければと考えている。 - 生徒たちは、学校が求めているリーダー像に近づくことができているのか。生徒たちの変化を保護者に対しても共有してほしい。 →学校の回答：学園祭の際にアンケートを実施しており、集計後、何らかの形で共有したい。昨年度まで、リーダーが固定されているように見受けられたため、教員から様々な場面で積極的な声かけ等を行っている。 - 先日開催された学園祭には、町内の多くの事業者が参加し、満足度も高かったと聞いている。これに限らず、今年度は、商工会青年部と叡智学園の生徒が協力して何かを作り上げていくような取組を進めたいと考えている。 →学校の回答：前向きに検討を進めていきたい。 - 昨年度の進学実績を踏まえ、教員のI B研修の実施状況についても今後注目を集めることが推測されるが、どのように計画し、実施しているのか。 →学校の回答：コーディネーターが年間の研修計画を立案し、様々な教員が関わることで、I B校として必要な理念を確認し、実践できるような研修を実施している。		

	コメント ・ 優秀な人間がするといった一般的な視点に捕らわれず、学校としても求めるリーダーを育てていていただきたい。 ・ 商工会は地域をつなぐ窓口でありたいと考えており、引き続き御協力をお願いしたい。 ・ 高大接続のための研修等も実施したいと考えており、今後連携をお願いしたい。 ・ 学校経営計画と同じように、子供たちも学習の計画を策定しているのであれば、それを保護者に示す機会があるとよいと感じた。 ・ 「学習者像」は教員のためのものであることに大きな意味があり、このことも十分に意識して様々な取組を進めていただきたい。 ・ 時間外勤務が特定の教員に偏っているということは、構造上の課題があると推測され、管理職において必要な対応をしていただきたい。 以上、委員から貴重な御意見等をいただいた。 学校経営計画については、全会一致で承認された。 本校としては、委員からの御意見等を踏まえて今年度の学校運営を行っていく所存である。
次回開催予定日	令和 7 年 10 月 21 日（火）